

# 「亀の瀬の地すべり見学会と龍田古道ハイキング」活動報告

担当：4班

日時：R5年6月23日 天候：曇り 参加人数：65名

集合・時間：JR大和路線 三郷駅前 ・10時00

行程：JR三郷駅～磐瀬の杜～関地蔵～峠八幡神社～大和川河川事務所～  
亀の瀬（地すべり資料館・排水トンネル・旧大阪鉄道隧道等の見学）～  
亀岩・竜王社（昼食・班長会）～（河内堅上駅）～青谷遺跡～吊り橋、夏目の渡し  
跡～国分神社～（松岳山古墳）～（大和川親水公園）～国豊橋～JR高井田駅（解散）



地すべり対策の排水トンネル



「旧大阪鉄道亀の瀬隧道」出入口



レンガ作りの隧道の内部



大和川の急流と亀岩から「亀の瀬」の地名が出来る



吊り橋



（所感）・・・龍田古道と初めて知った地すべり対策の土木技術について。

「龍田古道」は古代より奈良と大阪を結ぶ都の西の玄関口として、交通・経済・治水を支えてきた重要な古道で、天皇や官人も往来し文化の発展にも重要な役割を果たしてきました。

なだらかな古道からは史跡を見て歴史を感じ、自然を味わいながらのハイキングが出来ました。

奈良と大阪の国境に位置し、奈良盆地の水を一手に集める溪谷地帯の「亀の瀬」は、4万年前から地すべりを繰り返していて、場合によっては奈良盆地にまで水に浸かる恐怖を与えていました。

明治25年に「亀の瀬トンネル」が出来ましたが、昭和6～7年の大規模な地滑りで崩壊する。

鉄道は大和側の対岸に移設し、4万年前に2度の噴火で出来た地層間の水分を抜くために、巨大な排水トンネルを作り、直径6.5m長さ97mの杭を多数打ち込み、地すべりを止めて現在に至る。

又、平成20年に埋没していたトンネルの一部が、当時の姿のまま発見され、セメントの無い時代に漆喰でレンガを固め、そのまま残っている技術が高く評価され、日本遺産に指定される。

今回は、現地の担当者から分かり易い説明を受け、初めて知った内容を楽しく理解出来ました。